

令和5年度第1回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会（議事録）

日 時 令和5年7月7日（金）

19時～20時15分

場 所 高梁市役所 2階 保健センター

出席者 仲田会長、草野副会長、野村委員、笹川委員、磯村委員、大久保委員、
笹井委員、佐藤委員、竹崎委員、猪元委員、細川委員、田中委員（代理）

WEB参加 鶴見副会長

欠席者 西副会長、中田委員、原田委員

事務局 内岡次長、山本参事、赤木所長補佐、森本所長補佐、片山保健師

1 開 会（進行：内岡次長）

・委員交代 平田敦子委員→猪元信子委員

2 あいさつ

（仲田会長）

コロナの影響がまだ若干ありますが、今日は私のところではコロナの陽性者はありませんでした。日本医師会は第9波に入った模様という見解を発表しております。やはり連日増えておりますので、皆さん注意をしていただきたいと思います。在宅医療介護連携は、人と人が顔を合わさないといい連携ができないというのが基本ですので、コロナが少し流行っていても今までの経験を生かして、上手に繋がれるように進めていただければと思います。今日は令和5年度の事業計画についてということですので、皆さん、これに関しまして色々ご質問、ご意見をいただいていい方向に進めていけるようによろしく願いいたします。

3 協議事項（進行：仲田会長）

<令和5年度の事業計画について>

（1）在宅医療・介護連携推進事業（P4 事務局説明）

（2）実務者部会（P5～6 事務局説明）

（佐藤委員）

実務者部会としては、しっかりと現場に基づいた研修ができてきたかなと思っております。

医療介護連携システムですが、6月からラインワークスによる連携の運用をさせていただいております。使ってみて気がついたところをグループラインに記載しながら進めております。細かい運用を決めてしまうと、運用が難しいかなというところもあります。まずは、触ってみようという軽いスタンスから始めて、色々な問題点を抽出しながら本当に上手く運用できるかというところを検討して進めていきたいと思っております。その意見を元に7月26日に行われますコアメンバー会議で検討していきたいと思っております。

多職種連携研修会でございますが、ICTの活用というところで、地域おこし協力隊の宮崎さんがそういったところに長けておられるので協力をいただきながら進めていきたいと思っています。また、研修会の時間帯の設定が正直難しく、若い世代の方にも積極的に参加していただくにはどういう風にしたらいいのか、時間帯も含め検討して研修会を開催したいと思っております。

ACPにつきましては、高梁かごねっとさんと協力しながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(野村委員)

ラインワークスの件ですけれども、10月の会議の時に予算編成の絡みということをおっしゃられていましたけれども、市が支援していただくと大変ありがたいのですが、議会を通過するには何か条件というか、ノルマというか、そういうものを何かお考えでしょうか。

(事務局)

来年度の予算要求をするときに地域の医療、介護の関係者が本当に望んでいる事業なのかどうかということをお聞きしたいので、ラインワークスを試行してみて今後の業務の効率化、サービスの向上につながるのをぜひ導入したいという皆様のご意見が重要になってきます。実際に使われる医療・介護関係者の皆さんの意見を集約した上で必要だということであれば、意見集約を持って予算要求をしたいと考えておりますのでよろしくをお願いします。

(野村委員)

この中にもラインワークスを使われている方がおられるのですか。使い心地というか、感想があったら教えてください。

(笹川委員)

薬局としては4薬局が今回加入させてもらっていますが、薬局主体で動くことがなかなか少ないので、使い始めにくいという声は実際あります。うちの薬局ではケアマネジャーさんに対して報告書として活用させていただいています。ケアキャビネットと比べると接続はしやすいので使いやすさは感じています。以前、報告書はファックスで送信していましたが、ラインと同じような使い方なので慣れてしまえばかなりスムーズに時間も省略できるかなと感じています。

(仲田会長)

多分ラインワークスの方がアプローチしやすいシステムだろうと思います。これまでケアキャビネットを提唱してきた者としては、介護施設の電子カルテ化のような計画があるのだったらケアキャビネットの継続は一考の価値はあると思うが、それをやる気がないのなら継続しなくてもいいと思います。

(鶴見副会長)

ケアキャビネットは途中で切断されたりして使いにくかったこともあり、なかなか普及が難しかったのかと思います。ラインワークスの画像の状態を私はまだ見てないのですが、画像が問題なければ普及という面ではラインワークスの方が優れている可能性があると思うので、両者を比べて意見を聞いて、どちらかに選択していけばいいのではないかなと思います。

(笹井委員)

当院の方でも運用についての話はありましたが、今のところ運用には至ってない状態です。その理由として、当院の電子カルテの中の書類を持ち出したり、データを出したりするのは運用上難しいという現実があります。そういったところがクリアできれば活用に至ると思います。そうすると、今100人ぐらいの利用者さんの書類を全部ファックスで送っているので、かなり簡素化されて期待は持てるのかなと思います。今後、当院の方でも検討していきたいなというところではあります。

(仲田会長)

当院も電子カルテ使ってますが、両備システムズさんに頼んで電子カルテの中の同じ画面にケアキャビネットの入口を作ってもらって、同じディスプレイ上で動いてるとコピーアンドペーストができます。同じディスプレイ上でケアキャビネットと電子カルテが同時に動いてるとすごく使い勝手がいいです。動画を撮って電子カルテに入れたものをコピーアンドペーストでケアキャビネットに移すことは簡単にできます。ただ今のケアキャビネットの問題点は、ドクターが勝手に入って見られないことです。必ず地域連携室を通して見ないといけ

ないシステムになってるのです。これはすごくやる気を削がれます。僕の場合は電子カルテの上に乗っかっていますから、何もストレスがありません。ラインワークスの場合、例えば電子カルテ情報を乗せていこうと思うと、それが電子カルテの中にアプリとして取り込まれて、その情報を乗せれば乗らないことはないと思いますが、それが実際可能なのかどうか、全体のセキュリティ上問題なのはないかどうか、その辺のところの検証が必要かなと思います。ケアキャビネットが使われない最大の理由はドクターが入ってこないということ。それから在宅医療の条件を厳しくしすぎたというのがあります。在宅医療として、実際に支援者が訪問しているという人を対象にしました。通院している人も在宅医療ですよ。でも通院している人は全くこの中に上がっていませんでした。通所している人が全く対象に上がってなかったことも制度上の大きな問題点だったのかなと思います。その辺のところは考え直して、使うか使わないか、もう使わないのだったらさっさとやめちゃっていいと思います。お金の無駄遣いですから。できる内容はほぼ一緒です。ケアキャビネットにはそれぞれの施設でバイタルデータを入力でき、それが1週間ごとにグラフ化してプリントアウトができるという電子カルテと同じような機能が使えます。それからADLなどの情報も入力できて、それが週単位で示されるといつから悪くなったかというのが振り返ってみれるというメリットがあります。ただ、それを丁寧に入力する人が必要だということです。

介護施設の電子化はどんなものなのですか。

(草野副会長)

うちの施設は従来紙でやっていました。特別養護老人ホームですので、相談員、看護師、介護士、栄養士がそれぞれに記録をしていましたが、お互いがどのような情報を持っているのかわからないということでシステムを入れました。1つのシステムに向けて、それぞれ入力していくという形のものをしていまして、パソコンを開くと昨日何があったのか、誰がどのような意見を持っているのか、誰がどのような対応したのかということが、いろんな職種から見えるので非常にメリットになっています。ちゃんとシステムを構築していると、情報共有がきちっとできていくところが非常に大きなメリットです。ラインワークスはうちの相談員が使っていますが、特に食事の形態について、刻みだとかトロミだとか、トロミもいろんな状態があって、表現の仕方がそれぞれの施設でちょっと違う。みんなイメージが違う。でも動画を見ると同じように共有できます。百聞は一見に如かずというようなことで、すごく効果があるなと相談員が言っていましたけど、非常にサービスの向上に繋がっている部分があるかなと感じているところです。

(仲田会長)

ラインワークスに絞るんだったらどうやったらよく使えとか、ケアキャビネットを継続するのならどうやったらみんなが使いやすくなるか、その辺のところを検討していただきたいと思います。

医療・介護市民公開講座について、大学生に観覧に来ていただくというのはどうでしょう。

竹崎委員どうでしょう。

(竹崎委員)

チャンスがあれば参加できると思います。声はかけます。

(仲田会長)

大学生とか、あるいは方谷学舎高校、高梁城南高校の皆さんにも声かけをしてみたら、観客が増えていいかなと思います。

(3) 高梁かんごねっと (P 7～8 事務局説明)

(細川委員)

今年度新しく追加してプリセプター研修と看護研究を実施しております。新たに実施する理由は、各研修のアンケートで要望があったことと、昨年度新入職者研修の受講者の中で2名が退職されたということもありまして、新入職者に関わっているプリセプターの負担とか、新入職者をどのように見ていったらいいかという勉強も必要ではないかということで今年度プリセプター研修を追加して実施しています。現在8名参加いただいている他の職場の方と意見交換ができています。看護研究は看護協会高梁支部で2年に1回それぞれの施設に発表してもらっていますが、質を上げて全国に発表できるようなものができたらいいかなということで希望もありましたので実施しております。これにはこちらにおられます竹崎先生が講師を快く引き受けていただいて多くの研修をしていただいております。

(竹崎委員)

昨年の新入職者研修の参加者は3年未満の人ということでちょっと幅がありました。1年目と3年目では経験がやっぱり違います。今年度は全く初めての方ばかりなので共通認識ができていますし、そこで少しチームになってやってみようかなというところがございますので、ここだからこそできる研修会というのがあると思います。地域の特性を生かしながら定着化できるように少し継続して取り組みの成果を見ていきたいと考えております。

(仲田会長)

竹崎先生にお願いしている新入職者研修ですが、高梁市全体で病院の枠を超えて、初めて仕事に就いた人が集まって実施するという研修を企画して実行している自治体は多分ほとんどないのではないかと思います。本当に画期的な研修ではないかなと思いますので、各病院の看護師さんたちも奮ってますますご参加いただけますようによろしくお願いいたします。それこそ看護研究発表の大きな材料になるかもしれないですね。

(竹崎委員)

新入職者研修を受けた方をテーマにした研究を発表しようと思っております。中山間地域の看護師が不足しているところでどうやって定着化を図っていくかということで、新入職者研修とプリセプター研修の講師をさせていただいている者として発表していく予定にしております。

(猪元委員)

高梁地域はすごく現場の意見を大事にしてくださって、市が応援してくださっているというのを感じております。他の地域で新人の看護師が自分たちで集まって企画して交流するなどして、それが良かったので、例えば多職種の若い人にどうやって研修会に参加してもらうか。それぞれの職場の若い人がちょっと集まって、若い方は若い方でこんなことがしてみたいというのがあれば、古いものが一生懸命頭を悩ませるよりはいいのかなと思ったりします。それから地域新聞に若い方の看護とか介護とか医師も含めて広報したら、地域の方が先生のところにいっぱい詰めかけていたりされたのを聞いたので、高梁で子育てしながら頑張っているようなことが市民の方に伝わるというのかなと思います。

(磯村委員)

私たちは介護現場ですが、看護師さんもそうですけれども、介護職もどこの施設も足りないという状況です。何度募集しても来ないという状況なので、社会福祉法人連絡会に持って帰ってこの会の活動のことを伝えたいと思います。コロナ禍で全く交流がなくなっています。本当に外に出る機会がなくなっていて研修すらなくなっているということで、井の中の蛙になっていると思います。私たちもうちょっと元気を出していかなければならないということのを改めて、この会を通じて色々学ばさせていただいたということで、私的にすごく勉強になって本当にありがたかったかなと思います。

(大久保委員)

ラインワークスは栄養士同士でもどんどん活用できたらいいなと思います。食形態なども今は電話で確認をしていますが、やっぱり実際目で見ると、それって栄養食コードで言うと2だよね、3だよねなど電話ではなくて、動画や写真で連携できるとより本人に合った食事が提供できるかなと思うので、そういうものがどんどん活用できることを楽しみにしております。

(笹川委員)

多職種連携研修会と医療・介護市民公開講座で薬剤師会が関わらせてもらって、薬剤師の仕事を市民に対しても多職種に対しても知っていただけたかなと思っています。ただ、まだまだ問い合わせや連絡があまりないというような薬局もありますので、なんでもどんどん聞いていただければいいと思いますし、そういった活動を薬剤師会としてもしていきたいと考えております。

(田中代理)

多職種の人が協力するという形が出来上がっていることに期待をしています。救急としてそこへ急に呼ばれてその間に入っていきような立場になるのですが、この会での情報をしっかり現場の救急隊にも共有しながら、うまく連携して患者さんのために活動していきたいと考えております。

(仲田会長)

笹井委員、ラインワークスでビデオが使えるらしいです。

(笹井委員)

当院の方では訪問リハビリテーションで地域のリハビリとして関わらせていただいていますし、通所のリハビリの方でも患者さんにたくさん来ていただいています。ただ、どうしても閉鎖的になりやすいというところでは、多職種の方、ケアマネジャーさんであり、介護サービスの事業者さんであり、そういったところに対して、動画や写真が使えたら確かに幅が広がると思いますので、また検討させていただこうかなと思います。

(草野副会長)

うちの職場の話をしたと思います。職員における研修を行います。全職員対象の研修があります。全部で80人ぐらいいますけど、よく参加して30人ぐらいです。この春から動画で撮った研修を各職員に一斉メールします。ウサギメールというのを使います。そちらのメールに研修動画のURLを貼るとかなり多くの職員が見ます。今まで30人ぐらいだったのが、それからさらに30人ぐらい見て、全職員の8割ぐらいが見えたということがありました。体験型の研修だとそれはちょっとダメですけど、どうしても知っておいてもらいたければ、その時間に行けない人が必ずいるので、動画での研修はかなりの人が見えて良かったなと思っています。

(仲田会長)

高梁かごねとの方もいろんな研修を一生懸命していますが、介護系の職員さんも当然対象になっておりますので、もし現場での研修ができない方へは後でDVDで配るのですか。

(細川委員)

今年度は予算がないのでDVDは作れません。ただ、看護協会が実施してる研修が年3回ありまして、支部の場合は参加費がありません。会員になっていなくても会費は不要で参加できるので、今年度は高齢者施設の看護師さんに案内を配って先日8名参加していただきました。そういうところも発信していきたいと思います。

4 その他

- ・ボランティア養成講座について（事務局説明）
- ・家族介護者交流事業について（事務局説明）

5 閉 会

（草野副会長）

令和5年度第1回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会に大変お忙しいところご参加いただきましてありがとうございました。高梁かんごねっとはこれだけの研修をするのはすごいなと思わせていただいています。昨日、一昨日、私、岡山労働局の会議に参加しました。労働災害が増えているというお話がありました。特に介護とか医療系のところの労働災害が増えているということでした。原因はやっぱり人員不足と労働者の高齢化。働いている人自身が自分の身を守ることがとても大事なのかなと思いました。そういう意味では、福祉用具、アシストスーツなどを活用していくことで、現在働いている方に元気でやってくださいよという方向になるのかなと思いました。でも、新しい力が欲しいなとも思いながら、複雑な思いをしながら帰ってきました。そういう社会の中でこれからもやっぱり顔を見ながらいろいろな話ができるのが本当にありがたいかなと思っております。令和5年度の第1回の会議がこうやって皆さんと顔を見合わせながらできたことを本当にありがたく思います。長い時間ご検討いただきまして、ご意見いただきましてありがとうございました。